

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第103版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦ください。よろしくお願いいたします。

新たなスタート

東京都武蔵野市にある自動車教習所の中に、キッズルームという一時保育室があります。こちらの園は、自動車教習所を利用する方のお子さんを一時預かりする保育室です。今年の3月に武蔵境駅前に新たに、小規模支援施設「さかいりんごの木保育園」を開園することとなり、昨年4月から開園の準備を進めていました。

ギビングツリー主催の「職域別見守る保育セミナー」を東京の竹橋で開催しました。こちらのセミナーは、調理師や栄養士、看護師や事務職など、園に勤める保育者を対象としたセミナーです。セミナーでは職種ごとに分かれディスカッションを行い、一人職種ゆえの苦悩や課題、それぞれの職種がどう保育にアプローチしているかなどの実践の情報交換が行われました。

今回の臥竜塾年間講座では、「数講座③」についての講座が行われました。臥竜塾年間講座とは、東京都新宿区にある、新宿せいが子ども園の職員が毎回テーマを設け、実施する講座の事で、今年度は「文字・数・科学」をテーマに講座が行われています。

はじめに園長の小峰先生とお会いした時、「見守る保育に感動して、この保育を実践していきたい」と思いました。でも、どこから手を付けていいのやら、「とご相談を頂き、見守る保育を長く実践している園や開園2年目の園、小規模施設で見守る保育を実践している園に、1年かけ見学へ行ったり、セミナーに参加するなど精力的に活動されています。園名に込められた想いを

それぞれが考える
え、「見守る保育」をそれぞれの役割から、どう実践していけばいいかを示され、お話をして下さいました。

これまでの講座でも、藤森平司著「さんすうのはじまり」の内容が用いられ、単元ごとに新宿せい子ども園ではどのような保育を行っているのかを、実際の保育実践(写真や動画を交え)を見ながら行

お聞きすると、「米国作家シエ



先生方と記念写真をバシャリ!
【絵本の内容】
幼い男の子と大きな木は仲良しだった。男の子は成長するに伴い考え方も望むものも変わっていく。そんな中、大きな木は彼が何かを望むたび、自分の実や枝、そして幹までもを差し出す。

先生方と記念写真をバシャリ!
【絵本の内容】
幼い男の子と大きな木は仲良しだった。男の子は成長するに伴い考え方も望むものも変わっていく。そんな中、大きな木は彼が何かを望むたび、自分の実や枝、そして幹までもを差し出す。



【メルマガQRコード】
藤森代表の講演録、Q&Aの議事録をお読みいただけます。

【メルマガQRコード】
藤森代表の講演録、Q&Aの議事録をお読みいただけます。



『保育者のためのはじまりシリーズ』
学習研究社(2001/2/15)
藤森平司著

【講座のレポートも上記QRコードからご覧いただけます。】

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

共働



クルー同士、いつでもリアルタイムに情報共有をしています。



降り始めて30分余り...雪は都市を白一色に染めて。

都市に大雪警報が出された日、朝一番のミーティングで、状況を見ながら各々早めに帰宅することを決めました。でもだからと言って園さまでは帰れる状況にはいらつしやらない先生方がほとんど。そんな先生方からお電話をいただいたのに、誰も対応できない状態にはできません。自宅でもサポートできるように各自準備をすすめます。「お昼のお弁当はどうする?」「午後のスケジュールはリスケしておこうか?」誰ともなく声が掛かります。外出中のクルーへもそ

のまま帰宅するよう連絡を入れ、社内の体制も着々と整っていきます。お弁当を食べ終わる頃には雪は本格的になり、遠方に住むクルーにも帰宅を促す声が掛かります。お弁当箱の回収を待つ最後のクルーが帰宅の途に就いた時、辺りは一面雪景色。あつと言つ間のことでした。

この日、東京に大雪警報が発令されたのは午後2時半。その時点で帰宅命令を出す企業が多かったといえます。しかし、そつした人たちが駅に着いた時にはすでに駅は人で溢れていたそうです。多くの人が帰宅難民となった中、全員が安全に帰宅することが出来たのは、早い判断と行動があったからこそ、互いの協力がなければ不可能だったと実感します。本当の意味での共働をこれからも目指していきたいと思えます。

変化を楽しむ

指針改定に伴い、『ミマモリングソフト』のバージョンアップ準備を行っています。

前回、前々回、今度の指針。それぞれを比べてみると指針は改定されても「発達の順番や段階」は変わることがないのだといつことに気づきます。

しかし社会情勢は変わり、環境も変



多くの先生方に助けられて準備が進められていきます。



新指針への準備へ向けて。

化し、世の中も子どもたちの姿も多様化してきた現代だからこそ、「発達の順番や段階」という本質的な部分に変わりはなくても、乳児の内容をより細かく提示し、様々な視点や育つてほしい姿が追加されたのです。

この時代の変化に対応していかなければいけないのは子どもたちよりもむしろ私たち大人なかもしれません。子どもは素直にどんな時代でも環境に合わせて変化し続け、楽しみ、本質的であるうとし続けるからこそ、私たちも同じように、変化を楽しんでいき、子どもたちと豊かさを味わっていきたくと思えます。

至福の湯

聴福庵に温泉にも勝る「湯」ができました。床下の炭入れに始まり瓦葺きを経て百年間の役目を終えた樽を横たえ、ようやくお風呂デビューです。まだ未完成ながら貫禄十分。井戸水で湯を張り、立ち上る湯気に包まれると思わず胸が熱くなります。井戸も全員で掘った、樽も皆で運んだ、瓦を取りにトラックを走らせ、壁二面に仕上げの柿渋を総出で塗った。全てがこの瞬間のためにあったといつても過言ではありません。ゆつくりとその湯に身を沈めると、一

一期一会庵

「共に学ぶ」

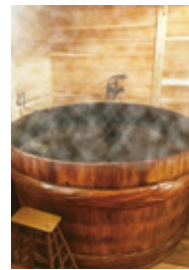
年始に社員のみならず山口県萩市にある松陰神社に参拝し松下村塾にて勉強する機会をいただきました。

私はもう25年間通い続けていますが、改めて松下村塾の教育方針を読み返すと今にも参考になることがたくさんあります。

この松下村塾では三尺離れて師の影を踏まずというような儒教的風潮は全くなく、師弟ともに同行し「共に学ぶ」というのがその基本的方針であったといえます。

吉田松陰は語ります。「村塾が礼儀作法を簡略にして規則もやかましくいわないのは、そのような形式的なものより、もっと誠朴忠実な人間関係をつくり出したかったからです。新塾がはじめて設けられて以来、諸君はこの方針に従って相交り、病気のものがいれば互いに助け合い、力仕事の必要の場合のみんが力をあわせました。塾の増改築の時に大工も頼まず完成させたのも、そのあらわれ

氣に力が抜けて行くのを感じます。まるでそれに呼応するように、湯船の方々から微細な気泡が舞い上がります。あらゆるものを受け入れ、全てを解放してくれるようなその優しさに、仲間と重ねた多くのご縁に想いを巡らせ、私たちの存在もこの湯のようでありたいと願うのでした。



直径170cm、高さ90cmの漬物樽。100年の歴史が生み出す柔らかな空気に自然と笑みがこぼれます。

です」。

吉田松陰は常々、「教えるの語源は「愛しむ」。誰にも得手不手がある、絶対に人を見捨てるようなことをしてはいけない。」と語り、得手不得手の全てを愛しそれぞれの持ち味が活かし合えるようにお互いに見守り合い、仲間として受け容れてくれたといえます。

この松下村塾の存在が塾生たちにとっては魂のふるさとであり、自分が天命を生きることを見出す道中の安心基地だったのではないかと私は思います。現代社会の教え込まれるプレッシャーで繋がりが断たれバラバラになり孤立する風潮が多い中で、師弟が一緒に「共に学ぶ」この教えは私たちの目指すところでもあります。共に学ぶ教育を、円対話を通して弘めていきたいと思えます。

編集後記

今月もご覧頂きありがとうございます。立春を迎えたとはいえ、まだまだ寒い日が続いております。季節の変わり目ですので、皆様どうぞご自愛下さいませ。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

☎フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)